

レオパレスに指導を

違法建築疑い 国に所有者ら

宮本岳議員と

大手サブリース業者「レオパレス21」(東京都)が開発・販売したアパートで、延焼や音もれを防ぐ壁(界壁)が屋根裏に設置されて

いないなど建築基準法違反の疑いが相次いで発覚しています。この問題で、アパートの所有者らで作る「LPOフォーラム」は15日、日本共産党の宮本岳衆院議員とともに、国土

状況」だと告発。国交省に対して▽行政監督のもと修繕工事を進める▽全物件の完了検査のやり直しなどを求めています。

同社は5月29日に1994年から2009年に建てられた物件で、調査済み約500棟のうち約200棟に建設基準法違反の疑いがあると公表。約3万

8千棟を19年6月までは入居の方々の命。早く確認して補修してほしい」と訴えました。

交通省に対して、同社への勧告や指導などを求め要請書を提出しました。

要請書では「同社に物件の調査や工事を依頼しても横柄な対応で所有者は不安と困難な

同社代表の前田和彦氏は「月に約3千棟、1日に約100棟の調査が本当にできるのか。同社の調査結果は疑わしい。別に完了検査をするべきだ」と訴えました。東京都立川市にある物件の所有者は「一番心配なのと答えました。」